

令和6年 2月26日

出張報告書

栗山町議会議長

鶴川和彦様

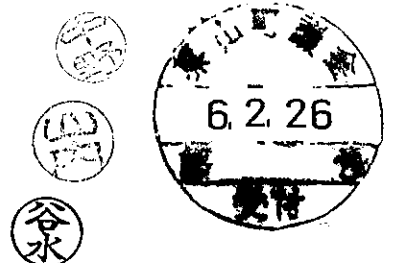
栗山町議会議員 齊藤 義崇



このたび、下記のとおり出張いたしましたので報告します。

記

- 1 期 日 令和6年 1月 31日～2月1日
- 2 出張先 東京都
- 3 研修事項
 - ・議会広報が変えた住民とのコミュニケーション
 - ・議会改革
 - ・若者の参画と意見反映
- 4 関係書類 別紙のとおり



マニフェスト大賞の成果を振り返り未来を展望する

2024.

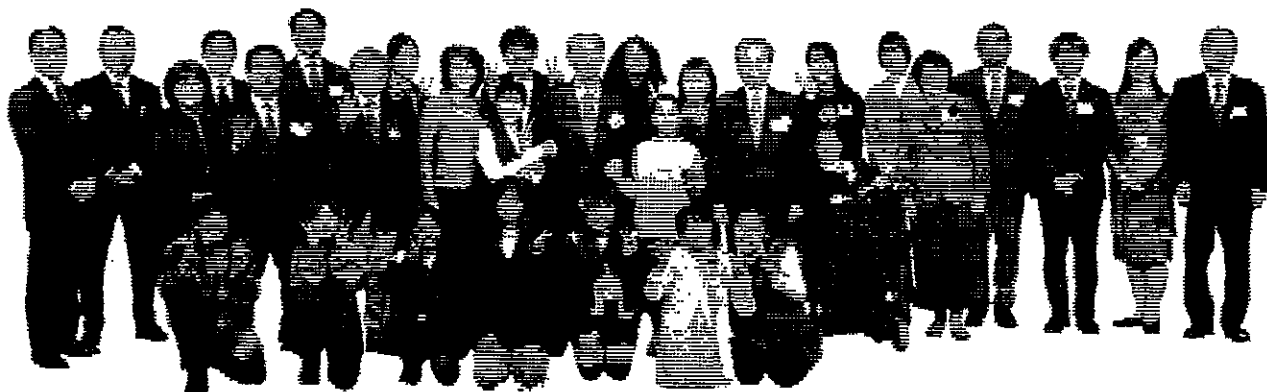
01.31 ▶ 02.01

Wed.

Thu.

Waseda University
& Zoom

Manifesto Awards Collection



Day1 [01/31 14:00-18:00]

“議会広報”が変えた 住民とのコミュニケーション”

東京都あきる野市議会 × 神奈川県開成町議会 ×
北海道鷹栖町議会 × 埼玉県寄居町議会

- 事例発表 (各 10 分)
- トーク・質疑 (70 分)

“マニフェスト大賞が変えた 議会と最新のトレンド”

江藤 俊昭 氏 (大正大学社会共生学部教授、マニフェスト大賞審査委員)
中村 健 氏 (早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長)

- 江藤氏講演 (20 分 ※オンライン)
- 中村氏講演 (20 分)
- 会場トーク (60 分)

意見交換会

- 18 時 30 分から (2 時間) 早稲田大学大隈ガーデンハウスにて開催
- 事前申込制 (希望者のみ)
- 会場のみ (オンライン配信無し)
- 別途軽飲食代 4,000 円 (税込) 当日支払

マニフェスト・アワード・コレクション


<https://maniken.jp/manitaiseminar/collection>


Day2 [02/01 10:00-15:00]

“若者の参画と意見反映 シティズンシップの未来”

西尾 真治 氏 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング主任研究員、マニフェスト大賞審査委員)
愛知県新城市若者議会 × こども選挙実行委員会 ×
カタリバ × NPO 法人わかものまのまち 代表理事 土肥 潤也氏

- 西尾氏基調提起 (15 分)
- 事例発表 (各 10 分)
- トーク・質疑 (50 分)

分科会

※オンライン配信無し

- [1] 「議会広報」分科会
- [2] 「議会改革の動向と最新のトレンド」分科会
- [3] 「若者の参画と意見反映」分科会

日 時 ● Day1 2024 年 1 月 31 日 (水) 14 時 - 18 時 (終了後意見交換会あり)
● Day2 2 月 1 日 (木) 10 時 - 15 時 (途中昼食休憩あり)

会 場 ● 早稲田大学井深大記念ホール (先着 200 名様)
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1 丁目 20-1 4
● Zoom ミーティング
● 後日レコーディング配信あり (事前申込者のみ)

参加費 ● 議員 11,000 円 (税込)
● 議員以外 5,500 円 (税込)
※ 2 日間通しの参加費です。

お申込み ● ウェブサイトまたは裏面 FAX 申込用紙より
● 申込期日 1 月 26 日 (金) 正午

注意事項 ● Day2 分科会はオンライン配信はございません。
● 申込期日 (1 月 26 日) 以降のキャンセルの場合ご返金できません。
● 申込期日までのキャンセルは全額返金します。
● 申込期日 (1 月 26 日) 以降の意見交換会キャンセルはキャンセル料 (100%) を申し受けます (料理の発注のためご理解ください)。

お問合せ ● 事務局 早稲田大学マニフェスト研究所 担当: 亀井・山内
メール: mani@maniken.jp 電話: 03-6709-6739

日 時	令和6年1月31日(14:00～18:00) 2月1日(10:00～15:00)
視 察 先	早稲田大学井深大記念ホール (東京都新宿区西早稲田1丁目20-14) マニフェスト大賞実行委員会主催 マニフェストアワードコレクションに参加
調査事項	議会広報、議会改革、意見反映 (事例発表、意見交換、講演に参加)
対 応 者	1日目 14:00～16:00 子籠あきる野市議員 吉澤寄居町議会議長 鈴木寄居町広聴特別委員会委員長 片山鷹栖町議会活性化委員会会長 川原広報広聴常任委員会委員長 前田開成町議会副議長 16:00～18:00 江藤大正大学教授 中村早稲田大学マニフェスト研究所事務局長 2日目 10:00～12:00 西尾三菱UFJリサーチ主任研究員 木戸新城市若者議会委員 池田茅ヶ崎市こども選挙実行委員会支援者 山本NPOカタバリ代表 土肥NPO法人わかもののまち代表理事

1. 視察目的	今後の栗山町の議会改革推進の為には、先進的な取り組みの議会の情報を調査することが重要であると考え、早稲田大学で行われる「マニフェスト・アワード・コレクション」に参加し、先進議会の事例発表、研究者の講演、意見交換に参加した。
2. 視察内容	<1日目> 「議会広報が変えた住民とのコミュニケーション」 14:00～16:00 あきる野市議会、開成町議会、鷹栖町議会、寄居町議会より、議会便りを中心とした広報広聴機能の工夫についてプレゼンを受けた（各10分）。 そののち、発表者が登壇し、パネルディスカッションが行われた。 「マニフェスト大賞が変えた議会と最新のトレンド」 16:00～18:00 江藤教授、中村事務局長の講演 <2日目> 「若者の参加と意見反映シティズンシップの未来」 10:00～12:00 西尾研究員、土肥NPO法人わかもののまち代表理事、木戸新城市若者議会委員、池田茅ヶ崎市こども選挙実行委員会支援者、山本NPO法人カタリバ代表より事例紹介（各10分）。 「分科会 ※2議会改革の勘所と最新のトレンドに参加」 13:00～15:00
3. 主な質疑	終日発表に対して質問は行わなかったが、会場やオンライン質疑が数問、発表者に投げかけられていた。分科会では栗山町議会の取り組みの紹介を求められたので、発言をした。
4. 考 察 (感想、政策提言、課題など)	あきる野市議会は議会便りの見やすさを追求して14年になる。シンプルな便りであるが、とても分かりやすい。議員も事務局も誰もが編集に参加できるように、特殊な手法は使っていないと説明があり、納得であった。鷹栖町議会は、通称：中刷り広告と呼ばれる定例会の案内チラシが有名で、映像やパロディを取り入れた、一般市民になじみやすい広報広聴に力を入れている。同様に開成町議会も映像に力を入れていると発表があった。寄居議会はあきる野市と同様に議会便りの見やすさ追求であったが、議員が取材をして、毎回コンセプトを変更し、工夫以上に制作時間

がかけられている。

議会便りの作成の参考になったが、制作時間や各種手法の駆使には議員のスキルを高めないと、改革できない。また、地方議会における住民参加や意見聴衆は重要なことであり、議会を知ってもらうことは必須であると思うが、時間や予算も限られていることや、地方議員の本文は政策立案、監視監督、利害調整であり、私はシンプルな議会便りで充分でなかろうかと感じた。寄居町議会のような取材などを行うことは、栗山町議会では行っていないので、取り入れる余地はあると感じた。

講演会では両名の先生から全国の最新の議会改革の事例紹介とそれぞれの所見を加えた、地方議会議員へのアドバイスがなされた。江藤教授はオンライン参加であった。これまでのマニフェスト大賞の受賞の議会の紹介の後、その先駆的事例によって地方自治の役割が明確になり、期待が高まっていると具体的な事例とともに講演された。当栗山町議会の基本条例の受賞も紹介がなされた。次に中村事務長からは議会の中でも会派や委員会の役割に着目した、地方議会の活性化について講演を受けた。当議会でも導入した委員会が行う代表質問についても、可児市の事例の紹介と所管事務調査を深め、政策形成サイクルに活かしていくことが求められるとお話されていた。また議員や議会・委員会が掲げるマニフェストの重要性についても解説されていた。

1日目の最後に北川審査委員長から、改めて地方から日本を改革していくことの重要性と、そのために地方議会に焦点を当てた、このマニフェスト大賞の意義について総評を含めたコメントが発表された。1日目を通じて、栗山町議会の今後の議会改革に参考となるお話や、事例紹介が多かった。今後は、所管事務調査の充実と代表質問のあり方、市民の取材やアンケートを反映した広報広聴活動について、当議会も小員会を2つ設置したので講演の内容を活かし議会改革を進めていきたい。

2日目に入り、冒頭の講演は西尾主任研究員の若者参画の地方議会・政治についてマニフェスト大賞の市民部門に、こどもや選挙権のない若者世代（中学・高校の生徒）の関わりが重要であると説明があった。主権者教育の一貫として、市民マニフェストの樹立、その約束の市民検証、市民ファシリテーターの育成が今後の地方議会のPDCAサイクルに重要であり、実際に進める牧之原市の事例で紹介された。牧之原市では高校生がまちづくりの担い手として、説明のあった若者世代参画が実現されている。

次に土肥代表理事から若者の地方議会参加について、講演があ

った。本人は29歳で静岡を中心に活動をしている。マニフェスト大賞の受賞の4つの地方議会とは若者参加でかかわりが深い。若い人が政治活動の前面にでると目立つが、実際には地方議会でも子供若者参加により、地方創成や活性化を目的として社会参画は重要であり、意見反映されるべきであるといった法律も制定されていると紹介があった。これまで政治・政策は子供若者を対象としてきたが、これからは主体であるとも語っていた。子供家庭庁でも重要なテーマとなっており、今後の地方議会でも進めるべきテーマであり、大人や地方の社会環境が変わり、主体性を持った子供施策が重要となるともおっしゃっていた。

3人目は新城市若者議会の事例で木戸委員が説明をした。新城市では若者議会が成立しており、木戸氏はその中の委員会の委員である。市長からの諮問という方法で、若者だけで市議会と同じようにテーマを決めて、委員会を開催し、問題を深堀している。まとめは答申として提出もしているという。4人目は茅ヶ崎市のこども選挙実行委員会の池田氏が、こども選挙を茅ヶ崎市で実施した事例を紹介した。最後に5人目はNPO法人カタリバの山本代表が高校生の校則の改正を通じた合意形成の全国での取り組みの紹介がなされた。現在NPO法人として326校で活動を支援しているそうである。自ら校則というルールの意味や改正の一連の活動を通じて、社会のルールの本質や意味の理解を深める活動であると紹介された。終了後、西尾研究員を司会としたパネルディスカッションが4名と交えて行われ、課題が深堀された。

子どもや若者の地方政治にかかわる取り組みや、主体的にかかわった関係者の活動紹介は参考になる面が多かった。栗山町議会でも栗山高校3年生との懇談や、出前報告会で中学生とかかわる計画もあるので、2日目のテーマであった若者参画と意見反映については、かなり刺激を受ける内容であった。今後もこのようなテーマの研修や、事例発表あった自治体に調査に赴きたいと率直に感じた。ただし、子どもや若者の地方議会との関わり方は、のちの人生にも大きく影響を与えるので、熟慮して進めなければいけないとも強く感じた。子供家庭庁の施策にも、今後注視していきたい。

最後に午後から分科会に参加した。第二分科会は20名程度の参加であった。参加は地方議員がほとんどで、議会改革の機関を有している自治体が多かった（栗山町で改革推進会議）。それぞれ創意工夫もしており、常任委員会と同じ扱いをし、力を入れている自治体も多い。永続的に地方議会の改革を進めていくなれば、定期的なアップデートとして、このような目的別の分科会に

参加しておく、議会改革のトレンドが学べるので、参加してよかったと感じた。

全体を通じて、地方議会の抱える昨今の課題の共有化や、議会改革のトレンドを、具体的な先進事例、成果の上がった事例の紹介から知る機会となった。今後は議会改革推進会議の座長として、もう少しこれらの事例を研究し、子ども家庭庁の施策も斟酌した上で、学んだことを議会改革に役立てていきたい。